シンガポール

NCB 海外レポート

スマート・シティ「シンガポール」の都市風景⑮

～グローバルロジスティクスハブとしてのシンガポール～

◇ はじめに

- シンガポールは金融・教育などの様々な分野で国際的なハブとして機能しており、国際物流の面でも世界トップクラスのハブとしての評価を受けています。
- 本稿では、グローバルロジスティクスハブとしてのシンガポールについてご紹介します。

◇ 世界 1 位の評価 ～物流パフォーマンス指標～

- シンガポールは、世界銀行が発表する 2023 年版の物流パフォーマンス指標(LPI)で、世界 1 位の評価を獲得しました[1]。LPI は、①通関手続きの効率性、②物流インフラの質、③国際輸送の容易さ、④物流サービスの質、⑤貨物追跡能力と⑥配送の適時性の 6 分野を通じて、物流の実力を評価する指標です。同国は、③を除く他のすべての分野で 1 位の評価を受けました。

◇ チャンギ国際空港 ～東南アジア最大級の航空貨物ハブ～

- 上記 6 分野の中でも特に高い評価を受けているのが、②物流インフラの質です。
- このうち、航空インフラに関しては、チャンギ国際空港が東南アジア最大級の航空貨物ハブとして機能しています。チャンギ国際空港は、50 カ国・地域の 150 都市と直結しており、年間の貨物取扱量は約 200 万トン（2024 年）に達します[2]。通関手続きやセキュリティチェックの IT 化・効率化が進んでおり、物流遅延が極めて少ないことが特徴です。
- 同空港は、今年前半からターミナル 5（以下、T5）の建設を開始する予定です。T5 は 2030 年代半ばの開業を見込んでおり、チャンギ・イースト開発区域内に建設されます。その規模は現在の空港全体にも匹敵するとされており、航空貨物専用ゾーンの拡張や自動化・スマート物流の導入により、航空物流ハブとしての機能がさらに強化される見通しです。

◇ トゥアス港 ～世界最大級の完全自動化コンテナターミナルを目指す～

- 世界第 2 位のコンテナ取扱量を誇るシンガポール港[3]では、次世代港湾トゥアス港の開発が進められています。
- トゥアス港は、シンガポール南西部に位置し、国内の既存 5 カ所のコンテナターミナルを同港に集約する計画が進行中です。この港では段階的な開発が進められており、2040 年代の最終完成時には年間 6,500 万 TEU[4]の取扱能力を誇る、世界最大級の完全自動化コンテナターミナルとなる予定です。

（シンガポール駐在員事務所 撮影）

- 2022 年 9 月に正式に開港したこの新港では、AI や自動ロボティクスを活用した移動車両、クレーンなどの先端技術が導入されています。
- 航空・海運ともに物流インフラの競争力を一層強化するシンガポールは、グローバルロジスティクスハブとしての地位を確固たるものにしつつあります。

---

[1] 日本はフランス、スペイン、台湾と同率の 13 位。

[2] 世界 1 位は香港国際空港(493 万トン)。成田空港の 2024 年実績は 194 万トン(出所：東京税関成田航空貨物出張所報道発表)。

[3] 世界 1 位は上海港の 5,151 万 TEU。

[4] 長さ 20 フィートのコンテナ 1 本を 1TEU(Twenty-foot Equivalent Unit)としてカウント。日本の港湾における 2023 年のコンテナ取扱貨物量は 2,176 万 TEU（出所：国土交通省報道発表）。

2025 年 5 月 2 日作成
西日本シティ銀行シンガポール駐在員事務所